

# 観光振興成果に差

「幼少期から日本の漫画やアニメに感銘を受けてきた。これでまた、日本の文化が集まる観光路線に近づいた」

帯広市の幸福駅と台湾新竹県の合興(こうこう)駅の友好駅締結式後に行われた関係者による会食で、邱鏡淳県長(県知事)は喜びの表情を見せた。その言葉通り、合興駅では日本の文化を取り入れた観光振興の「仕掛け」が、実を結びつつある。

## 日本のアニメが軸

合興駅は、年間150万人ほどが乗車する支線上にある。ホームやレール付近には愛を表現したオブジェが飾られ、結婚式の前撮りで華やかな衣装をまとったカップルが多く見られる。広い駅構内は

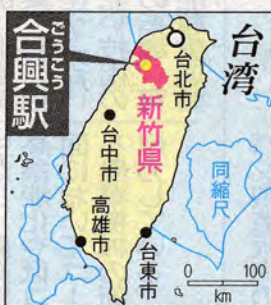
駅構内に配置されているPRキャラクター。人気のアニメや漫画を集客に結び付けている

公園として整備され、休日になるとトロロッコに乗って歓声を上げる子どもたちや、ピクニックを楽しむ家族連れ姿も。すでに観光地であるこの場所に、邱県知事が打ち出したあるプロジェクトが、新たな誘客創出につながっている。

それは国際色豊かな漫画やアニメを軸にした、官主導の観光の目玉づくりだ。同駅の保存車両となっている客車内はその一例で、飲食を楽しむ喫茶店のようでありながら、「キャプテン翼」や「ピカルの碁」など、日本で目にする



合興駅 台湾北西部の新竹県横山郷にある台湾鉄路管理局内湾線の無人駅。一時は廃駅の危機に直面するも、現在は「愛情駅」と呼ばれる観光スポットとして人気を集めている。当時高校生だった曾春兆さんが、思いを寄せる女性の乗った列車を同駅から走って追いかけたというエピソードに始まり、その後、同駅で愛を育んだ2人が結ばれたことが同駅の人気につながった。



二メ作品を参考に集客に結び付けている。

忘れられたキャラ

一方、幸福駅でも4年前、若年層をターゲットに「萌(も)えキャラ」をイメージした駅神(えきがみ)と呼ばれる「みゆき」を都内の社員が考案した。秋葉原の玩具店でそのグッズが販売され、全国から注目を集めた。だがそれも一時的なものでブームは収束。「みゆきの幸福日記」と題した公式ホームページ上の書き込みは2013年11月22日を最後に更新が止まり、今は人目に触れる機会も少ない。

が高い。いがらしさん自ら2年前に同駅でサイン会を開き、詰め掛けた150人のファンと交流を深めた経緯もある。

獅子をイメージした同県のPRキャラクター「皮皮獅」のパネルも、駅構内の至るところに配置。また、映画「ゴジラ」シリーズの怪獣などを手掛けた漫画家西川伸司さんの協力で生まれた、ゴジラの運行する車体のデザインに施されるなど、日本の漫画やア

帯広商工会議所青年部が同駅の訪問客を対象に8、9月に実施したアンケートでは、改善すべき点に「PR不足」といった指摘や「SNSでの拡散を求める回答があった。合興駅の雰囲気を目の当たりにした十勝日台親善協会の曾

単行本が中国語に翻訳されて棚に計2000冊ほど陳列されている。

画家のいがらしゆみこさんによる少女漫画「キャンディ・キャンディ」も台湾でアニメが放送されたことから知名度

3年弱客の取り、可能性